

地域に眠る銘品を アジアに輸出

We Agri

農水産物の輸出と海外マーケティングを手掛けるWe Agri（東京都中央区）は、海外販路開拓支援サービス「コネクトアジア」を展開する。その一環として、「地域に眠る銘品」を発掘し、輸出につなげる「日本縦断銘品発掘キャラバン」を開始した。

第一弾として熊本県南

阿蘇村のオーガニック食品を選出。農業ベンチャーの肥後市場フーズ（熊本市）と業務連携し、オーガニック食品の高付加価値化と輸出拡大による地域活性化を目指す。

コネクトアジアでは、シンガポールでの顧客開拓、商品開発のためのデータ収集、輸出関連業務の代行、現地でのプロモーション、ブランディングなどを行う。加工品等の売込みをしたい青果流通業者のサービス利用も

可能だ。初期費用30万円、月額6万円（ともに税別）。

一方、キャラバンでは、We Agriが有する流通情報などのデータ、バイヤーや消費者へのヒアリング情報などを総合的に分析し、ニーズに合う日本の生産品を抽出。それを日本全国の産地や生産者などの情報から割り出し、アプローチするとともに事業者と連携し、コネクトアジアへとつなげていく。

オーガニック食品に着目した理由として、とくに同社がマーケティング基盤を持つシンガポールで日本産品への人気が高く、「日本産オーガニック食品の高い需要が見込める」とする。一方、産地は、アジア圏での認知度や、6次産業化への積極性などを考慮し、熊本県南阿蘇村を選定。地域の農家や加工事業者の中心をなす肥後市場フーズとの業務連携に至った。